

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成20年7月2日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2170600361
法人名	有限会社 夢 家 族
事業所名	グループホーム 夢家族・柳津
所在地 (電話番号)	〒501-6115 岐阜市柳津町丸野5-47 (電 話) 058-388-4046
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1 はしま福祉サポートセンター内
訪問調査日	平成20年6月7日

## 【情報提供票より】(20年5月26日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 6 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	10 人
利用定員数計	9人
常勤	9 人
非常勤	1 人
常勤換算	4.2 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 1 階 部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円	
敷 金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	250 円
	夕食	450 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(5月26日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79 歳	最低	51 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	安江病院 ・ 山田病院 ・ 木村歯科
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム夢家族・柳津は主要道路を奥に入り、静かな環境にあるが近くには大型ショッピングセンターがあつて、散歩や買い物等に便利などころである。木造平屋の民家を改装し、ゆったりした広い廊下を挟んでそれぞれの居室スペースになっており、利用者も自分が今まで暮らしていたところのようであり、落ち着くと話している。食事もとても美味しく利用者もできるところは手伝い、共に楽しみ生き生きと生活している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善点は4点あつたが、毎月1回職員会議が全員出席で行われ、運営に対する意見や、ケアプランに対する検討、運営理念の浸透が行われている。家族等への報告、重度化や終末期に向けた方針の共有、栄養摂取や水分確保の支援など積極的な改善の取り組みがなされている。プライバシーの確保については更なる努力を継続している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は各ユニットで現状をありのまま受け入れることから始めた。その後、サービスの視点に添って、利用者の特徴を考えながら皆で話し合い積極的に取り組んだ。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、利用者の状況や、グループホームの情報の提供を行い、サービスの向上に努めている。会議の内容は記録に残され、職員会議等でも検討され活かされている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情相談窓口は代表者と管理者となっている。意見箱も設置されている。また、外部の相談員は民生委員となっている。月1回家族との連絡も取られ、面会時にはそれぞれの希望や意見を聞いて、運営に反映させる努力をしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者の日常生活における方針は、普通の一人の人間として暮らせるよう利用者の希望や、能力にあわせて支援されている。町内会に加入し、老人会、お祭り、花見会等地域活動に参加する努力をしている。婦人会、ボランティアの受け入れ等地域の一員として交流を深めている。</p>

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は、地域の中で利用者がある人らしく自由にありのままに暮らし続けることを支えて行ける様「安心感」を掲げ、事業所のケア理念を述べている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、職員に理念に対する考えを伝え、共有し、ミーティング等で話し合い、日常のサービス中で実践している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は町内会に加入し、老人会、お祭り、花見等、地域活動に参加する努力をしている。婦人会やボランティアの訪問もあり、地元の人々との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、具体的な改善目標を掲げ、評価に対する理解を深めている。上司にも相談しながら具体的な改善に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、外部委員を含め、定期的に利用者の状況や、サービスの情報提供を受け、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市の担当者とは、会議以外にも連絡し、相談や話し合いが来ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	月1回、ホーム新聞「生活便り」を郵送し、個々の家族へ日常の暮らしぶりや、健康状況の報告を行っている。金銭については、本部から報告している。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	苦情相談窓口は、代表者と管理者となっている。意見箱もあり、外部委員は民生委員で、家族の意見も運営に反映されている。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	管理者や代表者は職員の離職は、信頼関係が出来る利用者にとってダメージの大きい事を認識している。地元の人が、ほとんどで固定化し、顔なじみの職員によるケアを行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	事業所内外の研修を受ける機会をもうけ、知識や技術の習得が出来る様努めている。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム協議会に参加し、意見の交換や情報の交換がなされ、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して、納得の上でのサービスが受けられるよう、事前訪問、面談を行っている。利用開始後も面会など、徐々に馴染めるようにしている。持ち物も、危険な物以外は、希望通りにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者は、生活歴、生き立ち等、考慮しつつ、普段の暮らしの中に、利用者と職員が支えあう関係作りに重点を置いている。職員も良く理解し実践している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画の立案や、見直し時は利用者や家族の意向を記録し、良く検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者が出来る事、興味のある事など、一人ひとりにあった利用者本位の計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に3ヶ月に1回見直しをしている。月1回のミーティングにおいてケアマネージャーと全職員で状況変化について検討し、見直しが必要な状況であれば本人・家族・関係者と話し合い、計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急時の通院介助や買い物・理美容等において、本人の希望があり家族の了解を得て介助を行っている。年2～3回利用者の好きな物を食べる事が出来る外食を計画し おこなっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医による往診が週2回あり、利用者の希望される医療を受けられるよう支援している。受診結果等の報告は家族に行き、職員で情報の共有をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時より 本人・家族の希望により、このホームにて最後の看取りを希望される方もある。職員全員が利用者の情報を共有し、医師・本人・家族の確認を取りながら終末期の対応方針を検討してケアを実践している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録物・面会簿等に関する取り扱いには十分配慮されている。日中各部屋がオープンになっており開放感がある。少々プライバシーに注意が必要と思われるが、カーテンを閉めるなどの配慮がされている。	○	言葉がけなどに さらなる配慮を期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者中心の生活支援がなされ、一人ひとりの過ごしたい自由な時間帯と全員でゲームなどをするときもある。利用者の意思が尊重している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は嗜好も考慮され とても美味しく利用者が楽しみにしている。介助が必要な方が数名あり、職員と一緒に食べることができない状態である。	○	出されば職員一人でも一緒に食べられるようにすることを期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調や様子を見ながら入浴介助している。拒否のある人に対しては「なぜか」を職員で検討し、把握して入浴後の楽しみを作り支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が率先して出きる事を手伝っている。現在は男性の方が野菜やいちごなど農園芸に取り組んでいて、収穫もでき、食卓にのぼり皆の楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調が悪くない限り毎日散歩に出かけている。時には買い物、銭湯に全員で行くなどの支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていない。利用者一人ひとりの把握が出来ており、出かけるときの行動傾向、時間帯をつかんでいるので見守り、声かけがされている。時には一緒に出かけてついて行くこともある。玄関先がよく見える環境となっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署に依頼し、運営推進会議を利用して利用者・家族の方の参加もあり、避難訓練を行っている。また、消防署の指導を受けて避難場所を確保し、常備食や水を準備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考え、利用者一人ひとりの状態を把握し、咀嚼や嚥下しやすくして食事支援している。食事・水分摂取の記録もあり栄養と水分を管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間、特に廊下が広く、トイレの段差もなくし、車椅子を使用できるように改修されている。どの部屋も風通しがよく、さわやかで家庭的な雰囲気が漂っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は それぞれ自分の意志で家具などがおかれ、暮らしやすく 落ち着いた雰囲気になっている。また、上から物が落ちてこないなどの配慮もされて安心できる環境がつくられている。		